子供たちの「よりよいひとりだち」のために

HP 用

学び向上　中津川プラン　～令和８年度全国学力テストの結果から～

※全国学力テスト（「全国学力・学習状況調査」）とは、国語と算数（数学）、理科（令和８年度実施なし）、英語の基本的な知識・技能と活用の力を測るテストと、学習や生活についての意識調査を行うものです。（小６と中３対象）

【市全体の結果】

小学校・中学校共に、特に算数や数学において課題が残ります。

【学力を伸ばすポイント】

「判断の根拠・過程を明らかにしながら表現する機会を習慣化していくこと」

「自らを律する力の育成」

【学力テスト】



- 国語では、小中学校共に知識・技能として「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関わる問題の正答率が、全国平均と比べて高い傾向です。ただし小学校では、知識・技能の中でも「情報の扱い方に関する事項」、中学校では思考・判断・表現で「話すこと・聞くこと」の内容で課題が残ります。日記や生活記録、授業のまとめなどを自分の言葉で書くと共に、教科横断的な学びに力を入れていくことが大切です。
- 算数・数学では、小中学校共に、知識・技能として「数と式」「数と計算」の領域に関わる問題の正答率が、全国平均と比べて高い傾向です。ただし思考・判断・表現の観点で「数学的な表現を用いて説明することができるか。」の内容で課題が残ります。教科の基礎・基本はもちろん、なぜそうなるのかという判断の根拠や過程を明確にした上で表現する機会を習慣化していくことが大切です。

【意識調査】



- 生活習慣（早寝・朝ごはん等）の定着は、昨年度に引き続き、全国平均を上回っています。
- 一人あたりの家庭学習時間は、小・中ともに全国平均を下回っています。
- 前向きな回答をする子供が増えてきていた「夢や希望」「自己肯定感」等に関わる質問項目について、少し減少傾向にあります。

◆市全体で、学力アッププログラム（生活・学習習慣づくり）・絆プランを、今後も続けていきます。

◆学力向上のためには、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善（探究的な学びの充実）と家庭での学習時間を増やすことが必要です。

■市では

- 学校を訪問し、子供たちの姿を通して、よりよい指導について指導・助言をします。
- 先生方が主体的に学べる職員研修を工夫します。
- 絆プラン（読書）を進めます。



今後さらに！

■学校では

- 「学力向上一点突破」（各学校の学力を向上させるポイント）や学力テストで明らかになった自校の課題改善に取り組みます。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点から、更に授業改善を進めます。

■家庭では　学力アッププログラムと絆プラン（読書）の継続と認め励ましをお願いします。